

編集後記

太宰府市公文書館が、この御笠の地に開館しまして4年、この間、本誌も太宰府市公文書館における文書資料部門、および太宰府学研究センター部門という二つのあり方を自覚的に意識しつつ、編集を進めてまいりました。今回お届けします第12号も、多彩な内容で構成されております。

今号には、公文書館委員会委員でもあります九州国立博物館名誉館員本田光子氏より、特別にご寄稿いただきました。自らが九州国立博物館で担当された文化遺産の防災・減災に対する取り組みについて、太宰府市民遺産の考え方を参考にしたことを紹介、そのことが文化遺産を通じた地域社会のレジリエンス（強靱性）形成に寄与することを論じておられます。これに加えて、論文2本を掲載することができました。山村論文は、平安時代の水城西門ルートについて、近年の発掘調査成果に基づいて水城以北のあり方を検討、12世紀に、8世紀の官道が再利用されたことを指摘しています。また、山本論文は、南北朝時代、在府期の足利直冬政権における安堵・充行・裁判などをめぐる所領政策を詳細に検討して、その歴史的役割や軍事活動との連関に言及したものです。いずれも、きわめて意欲的な論考であり、それぞれの時代における大宰府研究の新たな一面を開くものといえます。

一方、資料目録については、地域資料として、太宰府市内で親子三代にわたって医院を続けておられる中嶋家より寄贈いただいた資料の目録、行政文書では旧社会教育課永年文書細目録を掲載いたしました。大正末～昭和初期頃の史跡管理・保存に関わるもので、具体的かつ貴重な内容を含んでいます。

さらに、資料紹介として、太宰府天満宮に所蔵されている「御記録」（延寿王院の公的日録）の慶応元年正月・二月分を翻刻・掲載いたしました。当該部分は、五卿の太宰府転座・延寿王院滞在が始まる時期にあたり、地元太宰府における五卿に関する第一級の史料です。翻刻・掲載をご快諾いただいた太宰府天満宮さまには、深謝の意を表します。

今号も、このように充実した内容でお届けできますことをうれしく思っております。末尾になりましたが、玉稿をお寄せいただいた執筆者の方々にはこの場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。各位におかれましては、今後ともご指導・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

(T記)

太宰府市公文書館紀要一年報太宰府学— 第12号

発行日 平成30年3月31日
編集 太宰府市公文書館
〒818-0110
太宰府市御笠5丁目3番1号
TEL / FAX : 092-921-2322
E-mail:kobunshokan@city.dazaifu.lg.jp
発行 太宰府市
印刷 株式会社博多印刷
〒812-0028
福岡市博多区須崎町8番5号
TEL : 092-281-0041